



室蘭工業大学

学術資源アーカイブ

Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive



## 航空宇宙機システム研究センターの外部評価

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター 公開日: 2016-04-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 棚次, 亘弘 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10258/00008824">http://hdl.handle.net/10258/00008824</a>

## 航空宇宙機システム研究センターの外部評価

○ 棚次 亘弘(航空宇宙機システム研究センター長 特任教授)

本学は研究活動の更なる向上を図るため、第2期中期目標期間の中間で、研究の実施体制や研究成果等について自己点検・評価を行い、さらに学外有識者からの評価を受けました。自己点検・評価の対象は、大学全体の研究活動状況のほか、研究センターである航空宇宙機システム研究センター、環境科学・防災研究センター、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの活動状況となり、独立行政法人大学評価・学位授与機構が行う「選択評価事項A 研究活動の状況」の観点に基づき自己点検・評価が行われました。外部評価委員は以下に示します学外の有識者です。

委員長 高橋 実 国立大学法人名古屋工業大学学長  
委員 中橋 和博 独立行政法人宇宙航空研究開発機構  
理事・研究開発本部長・航空プログラム推進リーダー  
委員 原田 昭 公立大学法人札幌市立大学特任教授(前学長)  
委員 三上 隆 国立大学法人北海道大学理事・副学長  
(敬称略。評価委員は五十音順)

自己点検・評価および外部評価は以下のようなスケジュールで実施されました。

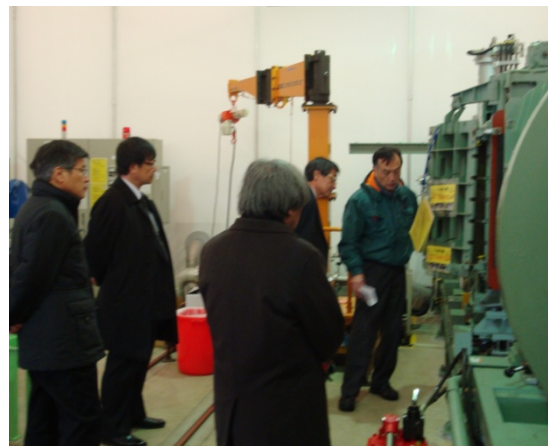
平成23年10月13日 認証評価に向けた自己評価の実施依頼  
平成24年 2月 3日 自己評価書等提出(研究活動の状況、研究活動実績票、根拠となる資料)  
平成24年 8月28日 自己評価書等完成  
平成24年12月13日 実地調査  
平成24年12月14日 施設見学、講評  
平成25年 2月 外部評価報告書公表

([http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/about/evaluation/e\\_evaluation.html](http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/about/evaluation/e_evaluation.html))

当研究センターの施設見学が実施された時の様子を以下に示しました。



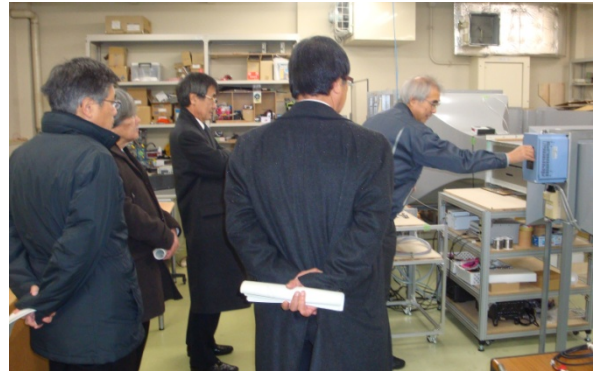
オオワシ2号機モックアップの見学



超音速風洞の見学



フライトシミュレータの見学



低速風洞の見学

次ページに外部評価報告書(研 究 活 動 状 況)の当研究センターの評価部分を抜粋しました。  
結果は5段階評価で、4と評価されました。優れている点、改善すべき点、提言の詳細は、外部評価報告書  
書を参照してください。

室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センターにおける  
研究活動状況の評価結果

外部評価委員長 高橋 実

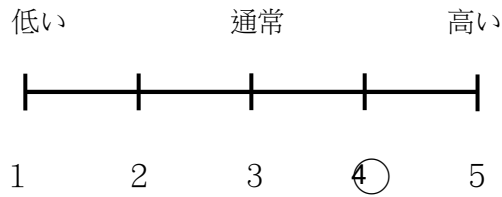
【優れている点】

- ・超音速風洞設備や高速走行軌道試験設備などの地の利点(スペース)を活用した他大学に無い試験設備を整備し、且つ機体、エンジンや燃焼系の開発を進める等、実践的な研究活動は評価される。
- ・また、大型特殊実験設備を供用した IHI 並びに川崎重工等各社との共同研究体制や地元加工業者の育成を図るなど、産学官連携活動は十分なものと言える。
- ・併せて、文部科学省への概算要求(特別教育研究経費獲得) 科研費、科学技術振興機構資金の確保等競争資金の獲得に積極的である。
- ・研究出版物、研究成果物の公表状況、国際学会等発表数、国内学会発表数、査読付き論文数、著書数は、第1 期中期計画期(平成21 年度以前)と第2 期中期計画期(平成22 年度以降)との比較において、おおむね第 2 期中期計画以降の年度ごとの発表件数が増加しており、研究の質が確保されている。
- ・実践的研究に連動した教育として、平成 18 年 JAXA との連携大学院方式による教育研究協力協定を結び、全国からの学生を集めた大学院教育の実質化を図っている。文部科学省により特別研究経費が平成 24 年度から一般経費への組み替えが認められたのも、この特色ある実践研究教育が高く評価された結果であると言える。
- ・当該研究センターの設立目的は「新産業創出領域(航空宇宙工学分野)」の研究実施にある。設立目的に沿った活動実績並びに人材育成への貢献は十分なものと評価される。

【改善すべき点】

- ・航空宇宙の実践的研究活動には理論研究よりも遥かに大きな予算が必要である。企業等との共同研究を活発に行っているが、国内の航空宇宙の産業基盤は相対的に小さい(GDP比0.2%)。外部資金の安定的獲得と増加を図るためには、航空宇宙の研究活動を中心に据えながらも他分野への応用を検討することも必要である。
- ・学生の就職の困難さは理解できるが大学院博士後期課程の学生数の増加並びに社会人育成を望みたい。
- ・成果の広報活動は十分とは言えず、有識者や産業界などの助言を頂き一層の「見える化」を図って欲しい。

【研究水準】 ※番号に○を付けてください。



【全体的な意見（提言）】

- ・特別経費から一般経費に組換えが行われた意義を自覚し、今まで以上に学部・大学院教育への積極的な参画が問われる。航空宇宙工学分野における実践的な研究教育をしっかりとアピールし、全国から優秀な学生が集う充実した場となることを期待したい。
- ・航空宇宙工学分野での具体的な貢献はその技術を活用して国、産業界、そして国民が何を得るのかという点にある。そのためには T 字型やクロス型の研究体制づくりが重要であり、幅の広い異分野連携が問われる。領域制を活用し、複合的な連携研究による新しい応用にも取り組んで頂きたい。また、国内各地での航空宇宙機関連研究拠点との差別化を一層進めるとともに最終目標とする「基盤技術の創出」を練り直し、より高次の研究教育の展開を期待したい。